

2001年度および2002年度の活動概況

本研究者集団のうちの東京圏在住者を中心とする小研究会は、科学研究費補助金が採択される前年度から、共同研究をスタートさせていた。

2001年度の活動

1) 2001年12月8日(土) 17:00～ イーストウェスト日本語学校にて

出席者：門倉、村上、嶋田、三宅、堀井

- 1 「日本留学試験」シラバスと例題の検討：門倉
- 2 「日本留学試験：これまでの疑問」：堀井
- 3 統計的分析：村上
- 4 日本語学校からの情報：嶋田「日本留学試験」利用予定大学一覧・
日振協「運用能力獲得のための基礎日本語教育」

2) 2002年2月7日(木) 17:00～ イーストウェスト日本語学校にて

出席者：門倉、山本、佐々木、嶋田、堀井

- 1 試行試験問題の分析（門倉）
- 2 留学試験問題の傾向・特徴（山本）
- 3 TOEFL との比較で見た日本留学試験（堀井）
- 4 試行試験関係諸資料の説明（嶋田）
 - 北大・早稲田理工の留学生入試要綱
 - AIEJ 配布の「日本留学試験と従来試験の得点換算表」試行試験実施結果の概要」
 - 村上京子氏作成のイーストウェスト公開試験受験者の成績分析
- 5 『アカデミック・ジャパニーズ問題集』作成にむけての説明（佐々木）
- 6 今後の予定

秋の日本語教育学会（高知大学で実施予定）で「日本留学試験とアカデミック・ジャパニーズ」をテーマとするパネルセッションを応募する。

3) 2002年3月18日(月)・19日(火) 八ヶ岳の麓での合宿研究会

出席者：門倉、佐々木、山本、嶋田、堀井

1 方向性として

①この研究会の名称を「日本留学試験AJ研究会」とする。

（日本留学試験の改善とともに、大学の日本語教育におけるアカデミック・ジャパニーズのシラバス構築をめざすという意味を込めて。）

②秋期日本語教育学会のパネルセッションに応募する。

③東北大学留学生センターを中心とする「アカデミック・ジャパニーズ研究会」や、日進協の新カリキュラム・プロジェクトと連携する方向をさぐる。

④この研究会の動きや、提案の方向性について、月刊日本語等のメディアにはたらきかけて、研究会の活動をアピールする必要がある。

⑤そのアピールのとりまとめとして、日本留学試験の改善とアカデミック・ジャパニーズのシラバス提示を目的とした本を刊行することも考える。

2 日本留学試験批判のポイント

①レベルの幅をつける必要がある。（現状では、初級者でもある程度でき、上級者の得点は頭打ちになっている。）

②漢字・語彙・文法といった知識を問う問題も必要である。

③読解等で複数の設問の形式をとり入れるべきである。

④アイテム・ライターの質を高める。（大学での日本語教育関係者がもっと問題作成に携わるようにアピールする。）

⑤キャンパス・ジャパニーズよりも、大学の授業でトピックとなるような問題を多くするべきである。

⑥この試験の特徴である「聴読解」問題に工夫が見られない。能力試験の聴解と同種なのが「聴読解」とされているケースも多い。→例えば、資料を見ながら研究発表を聞くといったような、「聴読解」本来の趣旨を生かした問題を対案として作る。

⑦読解の問題のトピックをもっとアカデミックなものにする。試行試験は手紙文が3問もあったり、遊園地のジェットコースターに乗れる人を問うたりと、読解の質が安きについている印象を与える問題が目についた。

⑧TOEFLの問題の質や形式からは学ぶべき点が多い。日本留学試験はもともと日本語のTOEFLを目指していたはずではなかったか。TOEFL日本語版を作るとこうなるという感じの対案提示も必要であろう。

3 アカデミック・ジャパニーズのアウトラインについて

①アカデミック・ジャパニーズは、専門基礎や専門への橋渡し教育というよりも教養教育の側面に力を入れるべきである。

②教養教育としてのアカデミック・ジャパニーズ教育の要素としては次のようなものが考えられる。

・受け身の学習スタイルから問題発見・解決という能動的な学習スタイルへと転換させる、転換期教育に寄与する。

・留学生が日本人学生と比べて不十分と思われる、市民的教養（市民として知っておくべき教養・具体的には高校のテキスト内容の基本事項）を補うトピックへの理解を促す。

・一方的な講義の聞き取り能力を養成するだけでなく、ゼミ的クラスでの議論や発表がこなせることを目標とする。

・理解力→表現力というように、アカデミックなトピックを素材として4技能を総合的に伸ばしていく。（山本他『国境を越えて』参照）

③アカデミック・ジャパニーズのキーワード

パラグラフ思考、キーワード検索法、事実と意見、多読・速読のための技法（スキミング、スキミング等）、論理的思考力（文章の流れを読み取る、背景・行間を読み取る、クリティカル・シンキング）、資料の読み取り（統計資料、読書ノート／メモのとり方）、ノート・テイキング、質問の仕方、問題発見能力、調査能力、要点把握（要約能力）・・・

2002年度の活動

1) 2002年5月1日(水) 東京圏のメンバー研究会 イーストウエスト日本語学校

出席者：佐々木、門倉、三宅、嶋田、鈴木、堀井

今年度の研究予算、研究活動の概要について

- 1 各メンバーへの配分額
- 2 秋の学会のパネルセッションに応募する。
- 3 11月に中国天津で開かれる国際シンポジウムに、この科研テーマに関連したトピックで応募する(応募者は、堀井、門倉の2名)。
- 4 今年度の適当な時期に韓国を訪ね、海外協力者の李徳奉氏と鄭起永氏と情報・意見交換する。(訪問者は嶋田、門倉)
- 5 東京圏研究会を月例で行なう。
- 6 今年度末にこの科研の研究報告書を出す。
- 7 科研メンバーの掲示板を門倉のホームページ内に作り、そこでオンラインでの議論を展開するようにする。また、メンバーに限定しないオープンな掲示板も作り、広くオープンに日本留学試験やアカデミック・ジャパニーズに関する議論を喚起する。
- 8 以上の、科研の枠内の活動とは別に、共同研究の成果を出版物として公刊するための活動も行なう。佐々木瑞枝氏が世話役となる。

2) 2002年5月24日(金) 午後7時～9時 学士会館談話室

出席者：門倉、佐々木、ネウストプニー、二通、山本、因、鈴木、嶋田、堀井

- 1 秋期学会パネルセッション応募とパネリスト候補選出の件：
筆頭発表者：佐々木、パネリスト：嶋田、堀井、山本、門倉
- 2 「問題集」についての担当を決める。
- 3 各メンバーの今年度の研究計画の概要について報告
- 4 今年度の「全体会議」をいつ行なうかを決める。

3) 2002年8月19日(月)・20日(火) 研究合宿 蓼科

出席者：佐々木、門倉、山本、嶋田、堀井

日本語教育学会秋期大会パネルセッションに向けての相談・打ち合わせ

4) 2002年9月6日(金) 午後1時～ 学術総合センター 全体研究会

出席者：門倉、佐々木、ネウストプニー、二通、三宅、山本、村上、因、鈴木、嶋田、堀井

- 1 今年度のメンバー各自の、および全体的研究計画について

①今年度研究成果報告書のテーマについて

ネウストプニー：アカデミックスタイルと同化の問題について

二通：実際の科目の中でのレポート書きの困難さについて。インタビューなど

三宅：考えるというプロセスについて。イギリスのクリティカル・シンキングの考え方や育の仕方を調べる。

山本：人文・社会科学系に必要な教養・知識とは
村上：留学生が困っていることのニーズ調査、テストの波及効果の調査
因：学部生が何をしているのかの実態調査
鈴木：予備教育の教育実践の中から関連テーマを追究する
堀井：試験分析、TOEFL との比較、問題作りのポイント、日本人大学生のアカデミック・ジャパニーズについて
佐々木：『アカデミックジャパニーズ』（ジャパントイムズ刊）を大学の授業で使ったの授業報告、
門倉：アカデミック・ジャパニーズとは何かという点と、読解問題のあり方について
嶋田：協力者として日本語学校関係の情報・活動報告
②SIG に拡大していく計画について
③東アジア日本語教育シンポジウム研究発表の経過報告
④韓国への調査日程について

- 2 第1回日本留学試験試験問題の分析(堀井)
- 3 日本留学試験における「聴読解」と「読解」の理念(コンセプト)について(門倉)
- 4 ジャパントイムズ社から刊行予定の「聴読解」「読解」問題集の問題案について(佐々木)

5) 2002年10月13日(金) 午後2時～ 高知大学 日本語教育学会パネルセッション

タイトル 日本留学試験の「日本語」を考える

問題提起 「日本語」の試験のあり方について 佐々木瑞枝(横浜国立大学)

パネル1 「日本語」試験問題を読む——「渡日前入学許可」の推進と「等化」の枠組み
門倉正美(横浜国立大学)

パネル2 日本留学試験の「日本語」をTOEFLと比較して——「アカデミック」言語力をどう問うか
堀井恵子(武蔵野女子大学)

パネル3 日本留学試験実施にともなう日本語学校の新たな取り組み
嶋田和子(イーストウェスト日本語学校)

パネル4 アカデミック・ジャパニーズのシラバス形成にむけて
山本富美子(立命館アジア太平洋大学)

(本パネルセッションの要旨は本書「資料編」に所収)

6) 2002年11月1日(金)～5日(火) 東アジア日本語教育研究会(中国天津外国語大学)にて研究発表

堀井恵子・門倉正美 アカデミック・ジャパニーズとは何か：どのようにその力をつけていくか

(本研究発表の要旨は本書「資料編」に所収)

7) 2002年12月20日(金) 東京圏研究会 武蔵野女子大学

ジャパントイムズ刊行予定の「聴読解」問題集についての相談・打ち合わせ

8) 2002年12月21日(金) 平成14年度日本語教育学会東北地区研究集会 講演
門倉正美 日本留学試験からアカデミック・ジャパニーズへ——助走と飛躍——

9) 2003年2月21日(金) 韓国ソウル同徳女子大学(コーディネータ 李徳奉)
2003年2月23日(日) 韓国プサン外国語大学(コーディネータ 鄭起永)
門倉正美 「日本語能力試験」から「日本留学試験」へ
——試験問題改良と「アカデミック・ジャパニーズ」を考えるために

10) 2003年3月6日(木) 午後1時~4時半 学術総合センター 全体研究会

出席者: 門倉、ネウストプニー、二通、三宅、山本、村上、因、嶋田、堀井

1 活動の報告(秋の学会以降)

① 中国天津学会報告(堀井) *別紙(発表時の資料コピー) 参照

*中国各地の日本語教育関係者とのネットワークを確立できた。

*中国独自の日本語試験について、情報の共有を求める声あり。

② 仙台研究会報告(門倉) *別紙(発表ハンドアウト)「日本留学試験からアカデミック・ジャパニーズへ助走と飛躍」参照

*アカデミックジャパニーズ研究会(東北地方の大学中心)のメンバーと接点を作れ。

③ 韓国説明会報告(門倉) 別紙(発表ハンドアウト)「日本語能力試験」から「日本留学試験」へ試験問題改良と「アカデミック・ジャパニーズ」を考えるために ハンドアウト参照

*韓国での日本留学試験実施期間を訪問、情報交換をした。

*韓国での受験者の伸びが少ないので、韓国側から日本留学試験を受けるメリット(大学入試科目に入れるなど)を創り出す必要があるのではとの意見があった。また、TOEFLを使う問題点も出た。⇒この件について、全体で話し合う。⇒TOEFLは北米の大学で学ぶもののためなので、日本の英語の試験に使うには、文化リテラシーの問題がある。

*韓国独自の日本語試験についての情報について⇒まだあまり質は高くない様だ

④ その他:

二通: 札幌の「北海道日本語教育ネットワーク」の中に「日本留学試験」を研究するワーキンググループを作った。

2 来年度の活動予定について

① 国際的連携を目指す: 東アジアにおける共同研究を組みたてられないか。

①-1 2003年8月8日、9日の「国際研究大会」のワークショップ・セッション(「アカデミック・ジャパニーズ」)について(門倉)

*海外からの招聘者: 曹大峰さん(中国・北京外国語大学教授)、
鄭起永さん(韓国・釜山外国語大学副教授)

*2003年8月7日に、全体研究会を持つ。

①-2 2003年9月 スイス・ベルンで開かれるヨーロッパ日本語教師会で研究発表をする。参加予定者: 三宅、佐々木、門倉

①-3 香港、台湾での学会にも参加したほうがよい。

①-4 7月に韓国で開かれる統合学会でアカデミック・ジャパニーズをアピールする必

要がある。

- ② 国内での研究連携の呼びかけ
 - ②-1 学会発表をどうするか。
 - ②-2 地域での研修会での発表
 - ②-3 SIG への登録の検討
 - ②-4 ホームページでの情報・意見交換
- ③ 科研グループとしての活動
 - ③-1 東京圏小研究会の活動の再開
 - ③-2 ホームページでの情報・意見交換
- ④ ジャパンタイムズ問題集の刊行について

3 来年度はじめに刊行予定の報告書の内容について（門倉）別紙参照

- ① 科研の目的と研究計画概要の紹介（門倉）
- ② 2002 年度の活動
 - ②-1 科研グループとしての活動
 - ②-2 個々のメンバーの研究報告
- ③ 資料編：資料集的性格も持たせたいので、関連論文などの掲載協力を。
 - * 科研報告書は転載しても著作権にはふれないとのこと。

4 各メンバーの研究報告

門倉：「読解問題の分析」、新しい読解問題のあり方を探る。

ネウストプニー：大きな枠であるアカデミック・インターアクションについて(12月メルボルンの学会で発表したものを中心に)、教育的コントロールについて

二通：レジュメ「専門科目でのレポート課題の実態とレポート作成上の問題点—専門教員および留学生へのインタビューから」参照：日本語授業でやっていることと大学の科目の中で行われていることのギャップをとりあげる。

村上：追跡調査：2001 年度入学の留学生 61 人に、1 ヶ月、6 ヶ月、1 年後インタビューを実施。困っていること、テキスト・講義について調査した。テストの波及効果の調査

因：学部生についての実態調査。授業数、試験・レポートの数、読んでいるもの、困った点への対処の仕方など

嶋田：協力者として日本語学校関係の情報・活動報告、聴読解の分析

三宅：レジュメ参照：留学生のアカデミックジャパニーズとは、日本人大学生のための日本語表現法を考える、留学生と日本人大学生の日本語教育を、「教育」という大きな視野から見る。

山本：学部留学生の学習・研究活動に必要とされる日本語能力について—学部教学体制の整備と「アカデミック・ジャパニーズ」の語彙分析より—

堀井：別紙参照：アカデミックジャパニーズとは何か、日本留学試験の目指す方向性、聴読解とは何か